

医療ルネサンス

No.5479

シリーズ 感染症

耐性菌を防ぐ

1/5

不要な抗菌薬処方多く

埼玉県所沢市の「くさかり小児科」に11月下旬、1歳の女兒が母親に連れられてきた。39度を超える発熱に加え、せきや鼻水などの症状があった。

院長の草刈章さんが、女兒の血液を採って調べたところ、白血球の数や炎症の

反応が通常値を大幅に超えており、細菌に感染した時の状態を示していた。

だが、高熱や白血球の増加は、風邪の原因の一つであるアデノウイルス感染でもみられることがある。もしウイルスが原因ならば、抗菌薬は効かないため使わ

ない。

草刈さんは、女兒の喉の粘液を綿棒で拭いてウイルス感染を調べた。15分程度で、ウイルス感染を示す



▲「抗菌薬を適切に使わなければ、結局は医者にも患者にもしわ寄せが来る」と話す草刈さん（左）

「陽性」との結果が出た。

草刈さんは「アデノウイルスが原因です。抗菌薬は効かないので、安静にして自然に治るのを待ちましょう」と母親に説明。痰を切る薬だけを処方した。女兒は2、3日で熱が下がり、元気になった。

不要な抗菌薬の使用は、

やがて抗菌薬が効かなくなる耐性菌を生み出すことにつながる。小児科受診の7割は何らかの感染症が原因との調査もあり、日本外来小児科学会の作業部会は2005年、風邪や急性中耳炎などに対し、抗菌薬の適正使用の指針を作成した。

指針は、原則として①ウイルス性の病気には抗菌薬を使わない②発熱があり、検査などで重症の細菌感染症の危険性が高い時には抗菌薬を使う——ことなどを定めた。

だが抗菌薬の適正使用

は、十分浸透しているとは言えない。新潟大病院小児科助教の大石智洋さんらは

07年、新潟県内の小児科医を対象に、38度以上の発熱や喉の痛み、鼻水があり、風邪と診断した場合の対応をアンケート。その結果、回答した169人のうち「抗菌薬を処方する」は48%。「まずは抗菌薬を使用せず経過をみる」(47%)とほぼ同じ割合だった。

子どもの呼吸器感染症の診療指針は、風邪に抗菌薬の使用を推奨していない。大石さんは「患者が求めるから処方するという医師もいる。『とりあえず抗菌薬を出す』という姿勢を改めなければ、患者の意識も変わらない」と指摘する。

草刈さんによると、「他の医師は抗菌薬を出してくれたのに」と、不安を抱く母親もいるという。草刈さんは「ウイルス性の風邪には抗菌薬が効かないことを説明し、納得してもらったことが大切です」と話す。

(このシリーズは全5回)

ご意見・情報を 〒104-8243 読売新聞東京本社医療情報部 FAX03(3217)1960 iryou@yomiuri.comへ



● ホタテとサーモンのテリーヌ (170kcal・塩分1.0g/1人)

【材料 4人分】ホタテ貝柱180g / 卵白1個分 / 生クリーム80cc / サーモン 4枚 / プレーンヨーグルト大さじ2杯 / ベビーリーフ20g / 白ワイン大さじ1杯 / マスタード小さじ1/2杯 / レモン汁

【作り方】①ホタテは水気をふき、白ワインをふる②フードプロセッサに①と塩小さじ1

杯を入れ5秒ほどかける。卵白、生クリーム、レモン汁大さじ1/2杯、コショウ少々を入れペスト状になるまで再度かける③ラップを20cm長さに切って横長に置き、サーモン2枚を平行に隙間なく並べ、上に②の半量をのせる。ラップを手前から奥へ向かって巻き、筒状になった両端をゴムで留める。同様にもう1本作る。電子レンジ(600W)で3分加熱し、冷ます④レモン汁、マヨネーズ各大さじ1/2杯、マスタード、ヨーグルトを混ぜる⑤器にベビーリーフを敷き、③を1.5cm厚さに切って盛り、④をかける。

◇「四季と寄り添う 持たない暮らし」(後藤加寿子著、徳間書店、1500円税別) 茶道家の家に生まれた料理研究家の著

者が、「和」を感じる、簡素だが上質な暮らし方を紹介。結婚の時にそろえた茶道具など、古い物を長く大切に使いながら心

地良く暮らすヒントが詰まっている。手作りだしなど、手間をかけた基本の和食のレシピも写真入りで紹介している。

生活

海外業者が運営する模倣品サイト

一さんは「残念ながら、被害の回復は非常に難しい。ほと

する日本の企業や通販会社の名称、住所をコピーしている

の詩

山いろいろいな色だよ

か、自然の思(弘)

護を必要、できるを維持する。